

山行報告

■オオヤマレンゲと八経ヶ岳

- 日 程：7月7日(月)～9日(水)
- 参加者：L上田 SL尾内 臼井 尾越 小田 笹木 木村 春本
- 行動記録：

(8日)：行者還トンネル西口 10:50 発～奥駆道出合(12:20 着)12:30 発～弁天の森(12:55 着)12:58 発～聖宝ノ宿跡(13:30 着)13:45 発～弥山小屋(15:10 着)

(9日)：弥山小屋 6:35 発～八経ヶ岳(7:10 着)7:25 発～弥山辻(7:40 着)～高崎横手出合(9:05 着)9:15 発～ナベの耳(9:40 着)～栃尾辻(11:04 着)11:10 発～林道 12:00～天川川合(13:30 着)

◆オオヤマレンゲを求めて八経ヶ岳へ

小田

近鉄下市口からタクシーで行者環トンネル西口登山口まで移動。到着するとひんやりして涼しくて、青空も少し見えて天気も心配ないようで一安心。

ストレッチをして、リーダーより奥駆道出合まで1時間と弥山の手前が急登になると説明を受け10時35分出発。川を渡って少ししたところから、いきなりの急斜面で浮き石だけでなく、木の根っこも多くて歩きづらい。覚悟はしていたがキツイ登りがずっと続き、涼しいはずなのに汗だくだく。その上、小さな虫が顔の周りを飛び回り悩まされました。しかし、ハルゼミや野鳥のさえずりに心が癒されました。

奥駆道出合まで来ると緑が増え、シロヤシオやブナ林の稜線歩きが続きます。バイケイソウの群生が至るところに広がり、お花の香りが漂っていました。霧の中のバイケイソウとシダとコケが美しく、幻想的でルンルンとハイキング気分でした。聖宝ノ宿跡は修験道の再興の祖である聖宝理源大師の優しい顔をされた像がありました。ここから



から弥山小屋に向かって急登になるので、お腹を満たし、心の準備をして出発。長い木段を登り詰め林を抜けると、弥山小屋に15時10分やっと到着。鳥居をくぐり山頂の弥山神社に向かい参拝。目の前にドーンとカッコいい八経ヶ岳が見えるはずが、ガスで何も見えない。残念！八経ヶ岳にはオオヤマレンゲが咲いてなくて、その先の明星ヶ岳分岐の所に少し咲いているという情報を得て、翌日にコースを少し変更して見に行くことになり、今日はゆっくり小屋で過ごすことになりました。

弥山小屋は、貸し切り状態だったので、夕食後も食堂でのんびりさせて頂き、和気あいあいとおしゃべりを楽しみました。就寝前に外に出ると、ほぼ真ん丸お月様がくっきり。八経ヶ岳

もすぐにガスに隠れてしまったが、薄っすらと見る事が出来、明日の天気も大丈夫そうです。

2日目、青空に朝日が眩しく、朝露に濡れた苔やシダが綺麗で日本庭園みたいな雰囲気でした。行く先にドーンと八経ヶ岳が見えました。ガスがどんどん流れていきます。木が立ち枯れになっていて大台ヶ原っぽい所を下り、登り返して八経ヶ岳に進みます。植生保護柵の中でオオヤマレンゲを探しましたが、一輪も見つかりませんでした。



八経ヶ岳(1915m)近畿最高峰に到着。「やったあ～～！」(八経ヶ岳で発狂!なんてダジャレを言って叫びました)大パノラマが展開しているはずが、ガスで真っ白で眺望ゼロ。残念!奥には錫杖のオブジェがありました。明星ヶ岳手前の弥山辻までオオヤマレンゲを求めて、期待を胸に歩きます。やっと、会えました。うつむき加減に数輪咲いています。蕾もありました。純白の美しい花に大満足!会えて良かった。

後は、ただひたすら天川河合まで下ります。シラビソやトウヒの原生林の中でカッコーやウグイスがさえずり、カジカガエルも鳴いています。新芽の鮮やかな緑にも癒されて、樹林歩きを楽しみました。だんだんと急な下りになり、天川河合登山口までが、長くてヘトヘトに疲れました。無事下山出来て、リーダーと笑顔でハイタッチ!!

まえひら旅館でお風呂に入りさっぱりして、美味しい山菜料理を頂き、帰路に就きました。2月に腰痛が悪化して、3カ月間山行に参加出来なかったし、連日の猛暑で歩荷トレも出来ていないので、久しぶりの泊山行で腰が悲鳴をあげないか心配だった。でも、思い出作りにチャレンジしようと、意を決して参加して良かったです。なかなかハードな修験道の山でしたが腰痛は大丈夫でした。リーダーはじめメンバーの皆様、楽しい山行有難うございました。



◆オオヤマレンゲとバイケイソウ

上田

天然記念物のオオヤマレンゲを見たさに、梅雨の最中に大峰山行を決めたのだが、6月に梅雨が明けたのも驚きだったが、八経ヶ岳北面の広いオオヤマレンゲの自生地は一輪も無かったのには、残念と云うより驚いた。厳重に保護しているように見えるのだが、どこからか鹿が侵入してやられてしまったというのだが。

一方、大繁茂していたのがバイケイソウだ。花の形は違うが、アルプスなどで見かける、白いソフトクリームを思わせるようなコバイケイソウと同じ「ユリ科 シュロソウ属」の植物で弁天の森から弥山にかけて大群落が続いていた。なぜ繁茂しているのか? 答えは明快、鹿も承知の煮ても焼いても炒めても毒が抜けない有毒植物なのだ。



■尾瀬 群馬県・福島県

<ゆっくりズム山行>

●日 程：7月22日(火)～24日(木)

●参加者：L藤原(千) SL平石 小田 兼本 笹木 佐野 松田 矢根

●行動記録：

(22日)：上毛高原 11:25 発～鳩待峠(12:55 着)13:20 発～至仏山荘(14:35 着)

(23日)：宿 7:14 発～竜宮十字路(9:03 着)9:29 発～見晴(9:57 着)10:30 発～
沼尻(13:23 着)13:55 発～浅湖湿原(14:29 着)～長蔵小屋(15:00 着)

(24日)：宿 6:46 発～大江湿原(7:18 着)7:26 発～宿(8:03 着)8:08 発～三平峠(9:12 着)
9:27 発～岩清水(10:24 着)10:29 発～一ノ瀬(11:07 着)

◆はらかな尾瀬～♪♪

小田

【7月22日】(鳩待峠～山ノ鼻)

初めての上越新幹線に乗り上毛高原駅で下車、ジャンボタクシーで鳩待峠まで1時間30分細い山道をくねくねと上って行きました。睡眠不足だった私は、揺れが心地よく居眠りをしている、気づいたら駐車場に到着です。ストレッチをしていると遠くで雷鳴が聞こえます。

大丈夫かなあ～？不安になりながら13時20分出発。滑りやすそうな石階段なので、熊鈴を鳴らしながらゆっくり下って行きます。しばらく行くと木道になり、下り坂の木道には一面に滑り止めのラバーが設置されており、安全に歩くことが出来ました。また、山ノ鼻までの木道は、ほとんどが新しい木道に取り替えられていて、きれいで歩きやすかったです。

ブナの森を気持ち良く下っていると、木々の間から雄大な山容の至仏山が見え、テンションが上がります。(登って見たいなあ。)目を下に向けると直径50cmくらいある大きな葉っぱがたくさん茂っています。鯉のぼりの先についた矢車に似ているのでヤグルマソウと言うらしい。

熊よけの鐘を叩いて橋を渡るとミズバショウの群生地です。残念ながらお花は無いけれど葉っぱが大きく、中に実がついているのがありました。熊は熟した実を食べに出没するらしい。だから、その前に実を取るようになっているらしく、ほとんど実がついていませんでした。

14時35分至仏山荘に到着。ザックを置いて近くのビジターセンターに行くと、雷鳴と共にザーと大粒の雨が降りだしました。そう言えば、途中休憩した時に歩荷さんが、今日も15時頃に雨が降ると言っておられた。到着した後で良かったです。

唱歌「夏の思い出」の歌詞に出てくる尾瀬に一度は行ってみたいと思っていた憧れの場所です。ゆっくりズムの山行に参加させていただくことが出来て、尾瀬ヶ原から尾瀬沼まで可憐な湿原の花々を愛でながらゆったりと湿原歩きを楽しみ「夏の思い出」が出来ました。今度はミズバショウの咲く季節には是非来たいです。



◆尾瀬2日目

兼本

尾瀬縦走二日目。今回の山行のハイライト日です。山の鼻から尾瀬沼まで13kmを歩きます。山の鼻を7時スタート、天候は晴れ。至仏山を背後に尾瀬ヶ原の木道を進む。この尾瀬ヶ原は、燧ヶ岳と至仏山の間に位置する本州最大の高層湿原であり、これからthe尾瀬の風景を楽しめそうです。

木道周辺に次々と現れる花に、メンバーの歓声が湧き起こる。こんなにも純粹に花を楽しめるのは、落ちているごみがほとんど見られない事が大きい。今回知りましたが、昭和47年に尾瀬の地で「ごみ持ち帰り運動」が始まり、これは日本での初めての試みだそうです。尾瀬国立公園は、正に日本の自然保護発祥の地と言えます。

牛首分岐を過ぎ、竜宮十字路にさしかかったところでハプニング。警察（谷川岳救助隊）の方より、ヘリが来るので急ぎ先へ進めとの指示を受ける。数分後、福島県のヘリが飛来しホバリングで体調を崩した男性を収容していった。パーティ全員が目の前での救助活動に無言になった。



見晴に10時着。ここからは山道に入るの、山小屋でお茶にして長めの休憩をとる。ここまで多数の池塘や、ワタスゲ・ニッコウキスゲ・キンコウカなどの花々を楽しんだが、意外だったのは、開花期（5月中旬～6月中旬）を過ぎたミズバショウの葉の巨大さだ。「夏の思い出」の歌詞に出てくる可憐さとはかけ離れた荒々しさが印象的でした。

見晴を出発し沼尻を目指す。平坦な木道になれた脚に緩やかとはいえ山道が少しこたえるが、尾瀬沼が見えると一気にテンションが上がる。13時半、沼尻休憩所着。昼食休憩とする。ここまでの行程の折々に、50年前の若き日の尾瀬の思い出を探ってみたが、ほとんど手繰り寄せられない。

沼尻を出て、浅湖湿原を経て、大江湿原のシンボルの三本カラマツを過ぎると、本日の宿の長蔵小屋に15時到着した。玄関前の水場で、手が痛くなるほどの冷たい水で顔を洗ってほっとした。

昭和の香りを色濃く残した老舗の山小屋で、私のセンチメンタルジャーニーの夜は更けていった。リーダーはじめ、ご一緒した皆様方ありがとうございました。



◆尾瀬ヶ原・大江湿原のニッコウキスゲ、尾瀬沼の景観を楽しむ(3日目)

平石

7月24日(木)早朝、今日もお天気に恵まれ快晴の中、長蔵小屋を出発するまでの時間を利用して、荷物を預けたまま大江湿原に向かいました。尾瀬特有の木道を歩いて。その木道の両側には一面雄大な大自然が続いていて、なんともどかな景色にゆったりとした楽園気分を味わいました。

大江湿原は、尾瀬沼の最上流に位置する湿原で尾瀬ヶ原に次ぐ広さの場所で尾瀬沼の東岸に広がり、大江川が湿原の中央を流れています。ニッコウキスゲの大群落で知られ「花の湿原」として尾瀬の中でも特に人気があるところです。

湿原の緑の中にキスゲの鮮やかな山吹色が一段と目を引きました。自然が生んだ奇跡の光景に思わず

「立ち尽くす 神の芸術 目の当たり キスゲ咲き誇る 大江湿原」 (笑)

みんな思い思いの風景をスマホやカメラに収めました。

もしかして、9月号の表紙を飾る1枚が見つかるかも(^ω^)・・・

限られた時間を惜しみながら大江湿原からの帰り道、尾瀬沼に映り込む逆さ燧ヶ岳がとても綺麗だったので沼に落ちそうな所まで行って、何枚もシャッターを押しました。

預けていた荷物を持って長蔵小屋を後に、三平峠から一ノ瀬休憩所へと進みますが、長蔵小屋がある尾瀬沼東岸から三平下にかけての岸边には尾瀬沼越しに燧ヶ岳を一望できる絶景ポイントが点在していて、木道も広くて歩きやすく、ここもとても良かったです。

今回の山行は、山には登らず至仏山も燧ヶ岳も山全体の景観を尾瀬ヶ原や尾瀬沼から楽しみたいという昨年からの希望を聞いてもらい、企画・立案していただきました。

欲張った思いを時間・場所・乗り物など綿密に計画していただき、そのお陰で尾瀬を思いっきり満喫することができました。

リーダー、ありがとうございました。感謝！！感謝です。ご一緒いただきました皆様、心に残る3日間、ありがとうございました。



■草木川遡行

●日 程：7月27日(日)

●参加者：L藤本 SL安田 池田 植田 乙坂 佐野 砂川(延) 田中(重) 田中(由) 春本 平石 福原 古澤 村上 森下 山本(清)

●行動記録：入溪地点 9:50 終了地点 12:00

◆草木川遡行(7/27)

村上

宍粟市役所に8時30分集合。カーナビに示された道をひたすら北上して10分前に到着した。草木川の集合場所まではOさんの車に同乗させて頂きました。2019年に初めて沢靴を購入してから、何度か参加しているが久しぶりの沢歩きです。メンバーは馴染みの面々に新しい数名が増えて16名。ワイワイとスタート地点に着くと浅瀬からスタートしました。水は透けて川底ま

で見える。足首から膝にそして首まで浸かる。段差を登るときは水しぶきを肩から浴びる。暑い夏に沢歩きは最高だ。10時半過ぎ中間点で小休憩。それぞれ岩場に腰掛けて沢の流れを見ながらおやつを食べる。緑に囲まれた沢は爽やかで清々しい。今回は晴天が続き沢の水は透き通って川底まで見ることができます。足の立たない所でもざんぷりと泳いで前進しようとするが、プールのように進まない。流れに押し戻され三度の挑戦でやっと渡れた。終点の岩場でゆっくりと昼食後、それぞれ岩場をよじ登って車道に出る。猛暑の中でも体は冷え切っていて、何とも気持ちの良い時を過ごすことができました。暑い夏は沢歩きがベストです。ありがとうございました。



■飯豊山(いいでさん)雨天中止 → 高尾山(東京都)

●日 程：8月6日(水)～8日(金)

●参加者：L島谷 SL尾内 白井 笹木 須増

●行動記録：

(6日)：JR手ノ子駅(13:26着)13:30発—(宿バス)白川荘(14:00着)

(7日)：白川荘8:05発—(宿バス)JR手ノ子駅—東京(12:48着)～高尾山麓宿
マウントタカオベースキャンプ(16:00着)

(8日)：ベースキャンプ6:00発—高尾山登山口6:25発～(6号路・びわ滝道・
吊橋コース)高尾山山頂(8:40着)9:40発～(1号路)下山口(11:20着)～
高尾山口13:06発—東京(14:30着)—姫路駅(19:45着)

◆おあずけ飯豊山、満喫！高尾山

白井

飯豊山…名前も、どこにあるかも知らなかったが「令和の米騒動」の今年【ご飯の豊かな山】に登るなんて面白いなと思い申し込んだものの、私にとってかなりの難関、おまけに最高峰の大日岳にも足を延ばす予定。行くからには、もちろん安全第一で登頂・下山したい。ここを乗り越えたら、自分自身のステップアップにも繋がるなあと。その為に週2日はトレーニングで近辺の山に登った。暑すぎるほどの毎日だったが、出発が近づくにつれ天気は下り坂。中止になる？とも思ったけれど、7日は雨模様だがその後は天候回復が望めるので決行となる。雨の中を歩くとなると、またハードルが上がるなと感じた。でも、行くと決めたら最善を尽くそう!!

出発当日6日、不安とがんばるぞ！という気持ちで迎えた姫路は青空。新幹線やJR代行バ

スなどを乗り継ぎ7時間半かけて前泊の白川荘に到着する頃には雨が降り出した。雨の覚悟はできていたが、登山口までの道路が通行止め？いや通れる？どうなるか未定だが、明日からの登山に備えて荷物整理をして早めに消灯したところで「やはり 通行を許可できない」との連絡が入る。飯豊山登山は中止となる。ここまで来られたのにこんな事もあるのかと、茫然としたが、5人で集まり「このまま終わるのは嫌だ」と、急遽予定を東京・高尾山に変更し計画を練り直す。

7日、宿出発時には、ポツポツと降っていた雨も米沢駅に着く頃には止み、くもり空ではあるが、車窓からは山々がきれいに見えていた。東京では青空も見られ、時々未練がましく、本当だったら今頃は〇〇まで登っていたのになあと考えつつ高尾山の麓の宿へ。夕食に入ったカフェでアイルランド料理をいただく。店長さんが地元の方で、高尾山のおススメルートを教えてもらう。

8日、宿を6時に出発し、6号路で登り始める。木陰の道で比較的涼しく、鳥のさえずりも聴こえ清々しい。店長さんおススメの琵琶滝から別ルートに入り、タコ杉や浄心門前を通過し、渡ってみたかった吊り橋のある4号路経由で8時30分には高尾山山頂に到着。山頂からは富士山が見えました。前回登った時は3月中旬で雪を被った富士山でしたが、今回の富士山は雪化粧が無くなっていました。周辺の山々を眺めたり軽食を摂ったり、ゆっくり過ごせた。下山は1号路で薬王院や浄心門を通り、ケーブルカーやリフトを使用せずひたすら舗装された急な坂を歩く。なかなか厳しかった。下山後、甘味処でクールダウンして、とろろ芋の天ぷらそばも食べて高尾山を満喫し、東京駅に移動。大都会東京、山行で何度か東京駅のホームには来ていたものの、外側から見たことがなかったが、念願叶ってレンガ造りのおしゃれな駅舎を見られて嬉しかった。登山ではないが、これぞ【お上りさん】(笑)。新幹線で予定より1日早く帰宅。また、飯豊山リベンジして、今度は感想文で「飯豊は、いいでえ～」と綴りたい。

リーダー、ご一緒していただいた皆様、ありがとうございました。感謝。



★リーダーよりひとこと

翌日の飯豊山登山をひかえ布団に入ろうとしたところ、宿の方のドアノックがあり「やはり通行を容認できないと地域から言われました」と謝ってくださいます。こんな状況は滅多にならなく「なんで今日に限って大量に降るの？」と意気消沈しました。でも、そこからです。どうする？このまま帰る？帰りたくない。どこなら安全に歩ける？宿は？夏季全席指定切符の変更は？朝一で山小屋キャンセル。5人でスマホを駆使して翌日からの計画を考え「晴天の中、高尾山から富士山を眺めよう」と決めました。悔しい「おあずけ飯豊山」でしたが、先の目標と楽しみが増え「きつと、また。」と約束して山行を終えました。